

庄内支部総会の報告

副支部長

高橋 敏 能

(昭和45年農学科卒)

平成24・25年度庄内支部総会が平成24年7月14日(土) 東京第一ホテル鶴岡の孔雀の間で開催されました。西澤隆農学部長と佐藤農一鶴窓会長を招待し、阿部重彰支部長(昭和48年農学科卒) 始め事務局の尽力で総勢35名の参加者を集めることが出来ました。阿部支部長の挨拶に引き続き、西澤学部長からのご挨拶では最近の農学部状況として、啓明寮の建て替え、外国人留学生の増加、構内整備の促進、市民農園の活用などが紹介される一方では、大学を巡る状況が厳しくなるため鶴窓会からの支援の必要性を強調されました。また、佐藤鶴窓会長からは、鶴窓会の運営を幹事会一本でスムーズにされたことや各支部の活動が活発になっていることが紹介され、鶴窓会の今後の活動が一層期待される挨拶でした。44年農学科卒の石黒清一氏の議長のもとで総会が行われ、事業報告・計画案と収支決算・予算案が原案通り承認されました。

引き続き農学科45年卒の相馬一廣氏から「農業から起業、そしてこれから」の演題のもとで講演が行われました。昭和52年に2戸の農家で馬鈴薯を栽培して産直する

ことから立ち上げ、昭和58年「月山パイロットファーム」加工部を設立して、現在の安定した経営に持ち込むまでの苦労話に出席者は熱心に聞き入りました。その中でも低投与で持続可能な循環型農業の成功事例として農学部の学生にも聞かせたい内容だったと思います。質問コーナーでは、「農業経済学研究室の先生方はどのような先生でしたか?」という質問に、「尾河先生から『タバコを吸うと馬鹿になるよ』と言われました。」と答えられ、出席者の笑いを呼びました。講演会の後、帯谷前鶴窓会長からの乾杯の音頭が始まった懇親会では、和やかな雰囲気の中で旧交をあたためて、2年後の再会を約束して閉会しました。



講演会の様子 講師：相馬一廣 氏



庄内支部総会 平成24年7月14日(土) 於：東京第一ホテル鶴岡

21年ぶりの最上支部総会

支部長

岩井 利 夫

(昭和45年農工学科卒
昭和47年農学研究科修了)

鶴窓会最上支部総会が平成24年3月18日(日)に佐藤農一鶴窓会長、西澤隆農学部長、齋藤博行鶴窓会副会長をお迎えして開催されました。最上支部は長い間休眠中でありましたが、鶴窓会副会長の齋藤氏の全面的なご入力により、21年ぶりに通算で3回目の総会開催でありました。鶴窓会本部の皆様方のご支援に厚くお礼申し上げます。

実は、平成23年3月20日(日)に再出発の総会を予定していたのですが、東日本大震災により直前で中止いたしました。昨年の出席予定者は7名でありましたが、今年の出席者は21名で昨年の3倍の出席者数となり、活気のある明るい総会となりました。総会では次の4点を承認していただき、来年度以降も継続していくことが確認されました。①新支部会則 ②平成23年度決算 ③次回総会は平成25年6月、それに向けた役員会の開催 ④平成24年度予算。

総会終了後、西澤隆農学部長より「農学部教育・研究の今と展望」というテーマで記念講話をいただき、大きく変化・発展している農学部の現状を知ることができまし



最上支部総会 平成24年3月18日(日) 於：新庄市「大地会館」

た。農学部が地域社会との交流・連携に力を入れていることを知り、地域社会の発展により一層貢献することを期待すると共に、私達も地域住民として農学部の活用を考えてもいいのかと思いました。その後の懇談会では、大学時代

の思い出や各自の近況報告など個性豊かなテーブルスピーチを出席者一人ひとりが披露しました。和やかな雰囲気の中に、会員相互の世代を越えた交流を深めました。2時間は瞬く間に過ぎ去り、来年度の再会を約束して閉会しました。

置賜支部報告

支部長
小川 洋

(昭和43年農業工学科卒)

置賜支部は、昭和38年に置賜地域(米沢、長井、南陽の各市と高畠、川西、飯豊、白鷹そして小国の各町)の3市5町の同窓生で構成し、今年は50年目を迎え、会員数は130人となります。

(平成24年度の活動状況について)

1、年賀状の挨拶 1月1日
会員のご健康と、ご活躍を祈念し、賀状での新年の挨拶

2、幹事会(寒だら会)

今年は1月21日に開催し、9名の参加のもと、年次計画を協議して、会議終了後は、恒例になっている、鶴岡市内の魚屋直送のどんがら汁で懇談しました。

3、総会

隔年毎に開催し、交通に便利な南陽市の赤湯温泉でおこなっています。今年の総会は休会です。

置賜支部事業の基盤は総会と幹事会の寒だら会ですが、出席者は固定化しており、和やかな雰囲気の良いのですが、会員の出席者数を多くして、さらに盛り上げたいと思います。

(事業の活性化を進めるために検討したいこと)

国立大学法人山形大学農学部としてスタートして10年ほど経過するわけですが、社会が大きく変化



置賜支部幹事会(寒ダラ会) 平成24年1月21日(土) 於：米沢「喜久好」

する中、地域との連携、地域への貢献などを中心に努力され、発展されていることは喜ばしいことであり、心より感謝申し上げます。

置賜支部といたしまして、平成24年度は支部が発足して50周年を迎えることとなりました。会員の方々のご理解とご協力をいただ

て、支部の活性化を図り、山形大学農学部の永続的な発展に役立つような組織でありたいと考えております。

最後になりますが、鶴窓会の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。

平成24年度 宮城県支部総会を開催

支部幹事

中井 誠 一

(昭和53年農芸化学科卒)

平成24年6月10日午後3時から、仙台市青葉区のホテル法華クラブにおいて第5回目となる平成24年度の鶴窓会宮城県支部総会を開催しました。本部からは佐藤会長にお出でいただき、総勢50名が参加して、和やかなひとときを過ごしました。

当日は、菅原克哉氏(昭和60年、農学科卒)を議長に選任し総会が進行されました。「平成23年度事業実績及び決算」と「平成24年度事業計画及び予算(案)」についてご承認いただき、役員改選では富樫二郎支部長以下全員が留任となりました。

引き続き支部では初めての取り組みとなる、記念講演に移りました。講師は昭和57年農学科卒で、仙台市在住のライター、菅原ケンイチ氏(本名 菅原健一)。演題は「出羽三山 森羅万象に神が宿る信仰の原風景」。1時間弱の講演でしたが、出羽三山は農学部出身の我々にとって思い出深い山であり、氏の講演を通じ、その歴史的、思想的な意味を改めて知り、会員の皆それぞれが庄内への思いを一段と深くしたのではないでしょうか。

その後、皆様お待ちかねの懇親会に移り、富樫千之副支部長の挨拶、山口正彦さん(昭和25年農科卒)による乾杯の発声と続きました。その後、お忙しい中、本部から出席いただいた佐藤会長からの最近の大学を巡る状況などをお話いただきました。

この後、参加者によるスピーチが続ぎ、あつという間の2時間が過ぎてしまいました。来年も引き続き、6月第2日曜日の開催を予定しておりますので、県内在住の皆さまにはぜひともご参加いただこうお願いします。



宮城県支部総会 平成24年6月10日(日) 於：ホテル法華クラブ仙台

関東支部

支部年代幹事

福森 秀 臣

(昭和51年林学科卒)

第9回関東支部総会及び懇親会は、平成24年7月8日(日) 東京都港区の山形大学東京サテライトで開催されました。5月20日の役員会で議論された総会での講演を鶴岡市立加茂水族館村上龍男館長にお願いできることになり、事務局が他の学部同窓生に声掛けをされ、60名近い方が参加されました。

総会は岩城功希総務(38農工)の司会で、佐藤善作副代表(38農学)の開会の辞に続き、大山克巳代表(37林学)の挨拶、松山正弘会計(57農工)の会計報告、鈴木晴夫監事(39農学)の監査報告が式次第に則り行われました。支部・本部役員の改選や本部役員報告などが岩城功希総務より会員状況等と併せて説明がありました。尾西文明副代表(48園芸)の閉会の辞により無事総会は終了しました。

今回の目玉とも言える講演会は先の記述通り、鶴岡市立加茂水族館村上龍男館長(38農学)による「世界一になった老朽・弱小・貧乏水族館」というテーマで御講演頂きました。

館長の経歴やノーベル賞受賞の下村脩先生との交流、加茂水族館の育成の苦労話等を豪放磊落にお話しになられ、あつという間に講

演時間が過ぎてゆきました。私事で恐縮ですが、平成22年に鶴岡市合併5周年・南シユバルツバルツバルト自然公園友好協定締結記念の「森林文化都市シンポジウム」で我等が導師北村昌美先生の御講演を拝聴すべく鶴岡に伺った際初めて加茂水族館を見学しており、村上館長の著書等を購入しておりました。

でした。また、2次会にも参加された教育学部(教友会東京支部)蜂谷義男元会長の出羽三山の山岳信仰に関わるお話等は、次回の講演に是非との声が多くありました。校友会や同窓会の財政にも卒業生が貢献でき、その上で鶴窓会が一層の発展と参加者が増大することを祈念して、筆を置きます。

「尚、我が導師北村昌美先生は、8月13日にご逝去されました。とても辛く悲しい報告です。」

有意義な講演の後、恒例の記念撮影を行い、眞嶋敏晴事業役員(43林学)、篠原斉四郎年代幹事(47林学)の司会による懇親会へと進みました。新たに代表となられた佐藤善作代表(38農学)の挨拶に続き、来賓の佐藤農一鶴窓会会長の御祝辞を賜りました。そして昨年の支部総会以降に判明した物故者の方々への黙祷を行いました。参加記念の品々は、篠原年代幹事の御尽力により、平成23年3月11日(金)14時46分発生の東日本大震災で大きな被害を受けられた岩手・宮城・福島の物産が提供されました。御講演頂きました村上館長の著書も2種類販売されましたが、欲談しながらサインを頂くことで間もなく完売となりました。他の学部同窓生も参加された事で、新たな発見や感動がありました。文理学部(東京すまゐ)より参加された相馬義嗣事務局長に「ふすま」の由来を伺ったところ、鳥海フスマから命名とのこと

役員 佐藤 善作 (38年農学)
副代表 山本 千秋 (41年林学)
三宅 義則 (45年農化)
尾西 文朗 (48年園芸)
松山 正弘 (57年農工)
安田 明雄 (63年農工)
鈴木 晴夫 (39年農学)
仙田大太郎 (39年農学)
眞嶋 敏晴 (42年林学)
事業 眞嶋 敏晴 (42年林学)
〇総務
(事務局) 岩城 功希 (38年農工)
〇年代幹事
昭和40年代 丹野 修 (47年園芸)
昭和50年代 篠原斉四郎 (47年林学)
昭和60年代 板垣 邦彦 (50年農化)
福森 秀臣 (51年林学)
平成一桁代 佐藤 武浩 (63年農学)
人見 秀康 (6年農化)



村上館長 講演模様

小野 公嗣 (9年生産)
平成10年代 鳥畑 淳 (11年環境)
柳 康平 (16年生産)
〇本部役員
幹事(2名) 山本 千秋 (41年林学)
副代表 山本 千秋 (41年林学)
事務局 岩城 功希 (38年農工)
代議員(4名) 佐藤 善作 (38年農学)
代表者 山本 千秋 (41年林学)
副代表 山本 千秋 (41年林学)
幹事 眞嶋 敏晴 (42年林学)
事務局 岩城 功希 (38年農工)
相談役及び顧問 高橋 雅夫 (32年農学)
渋谷 幸男 (37年農工)
大山 克巳 (37年林学)
中野 貞夫 (33年林学)
三澤 泉哉 (33年林学)
木下 弘光 (36年林学)
仲川 通治 (37年農学)



関東支部総会 平成24年7月8日(日) 於：山形大学東京サテライト

第6回 関西支部総会報告

T・Y & K・O

鶴窓会関西支部は昨年10月1日に5回目を終え、11月に米沢工業会に招待を受け参加、又今年1月にはふすま会に同じく参加、5月26日には本部総会に参加しました。7月関西校友話し合い会(第3回)はメールで意見交換がもたれ、これからも交友を育んでいくことで一致した。今年は新たに都市の自然環境研究会(俗称芋煮会)の発会に向けて、当会各幹事・会員とのネットワーク打合せがもたれた。また、新鶴窓の森(学園全体)構想にも意見の交換がもたれた。

又、鶴窓会だよりの寄稿は次の諸氏を推薦しました。

- 1 岡 勝行 (S50園芸)
- 2 村田 力 (S62農工)
- 3 井狩康一 (S54農工)
- 4 佐藤文彦 (S63農化)
- 5 堺 貴史 (H11林学)

今年の総会は

10月6日(土曜日)を予定に幹事一同準備に掛っております。

(関西支部事務局)

.....

第6回関西支部総会次第

日時 平成24年10月6日(土) 17時
場所 割烹湖月(大阪市中央区東心斎橋1丁目)

来賓御案内 種市参与

受付 小山、田端参与

晴天の夕暮れ予定通り超厳しい

世相の中で、校友会本部、鶴窓会本部より、来賓の方々をお迎えした。27名の出席者を得て開催された。(なお、校友会、鶴窓会本部から共に結構なお土産を頂きました事を申し添えます。)

1. 開会の辞(総司会 古川幹事)
2. ご挨拶と経過報告(支部長)

最近の関西支部の動向
都市の自然環境研究会『俗称芋煮会』、新鶴窓の森(学園全体)構想、交友推進協議会等

- 規約・役員について(事務局長)
3. ミニ講演会(鈴木幹事)

鶴岡市他山形県の実状

山形県大阪事務所八矢代表

農芸化学を学びそして今

多木化学(株)役員 畑繁喜氏

欧州(独逸他)にふれて

D,J(株)役員 赤木佳彦氏

4. 懇親会(司会・河上幹事)

乾 杯 (斎藤顧問)

初参加者紹介(事務局長)

歌・山形県民謡(最上川舟歌他)

5. 来賓紹介・ご挨拶

(司会 種市参与)

鶴窓会本部代表(齋藤博行副会長)

ふすま同窓会代表(斎藤格司氏)

里村義征氏

米沢工業会代表(森下喜郎氏)

関西山形県人会代表(菅原格氏)

6. 懇親会 II (田端参与)

寮歌・追遥歌・校歌

7. 写真撮影(松田参与)

①参加者全員

②都市の自然環境研究会発会式

(鶴窓会ホームページ掲載予定)

8. お願い(事務局長)

9. 閉 会(斎藤参与)

山形民謡の聞こえる会場で、再会の友が話し合う中で、後輩は先輩に、先輩は後輩に、同輩は同輩に共に敬意を、慰労を、喜びを盆を注ぎ、受けながら、新しい芋煮会の発会も迎え、タイムスリップの錯覚に酔い、唄い、宴はつづき、再会を誓いながら、一夜を終えた。

鶴窓会関西支部 役員

支部長 安富 俊晴 (S38農工)

事務局長 岡 勝行 (S50園芸)

幹 事 古川 良和 (S45農学)

鈴木俊一郎 (S45林学)

野中 久嗣 (S53農工)

伊藤 利昭 (S53農工)

畑 繁喜 (S50農化)

西村 健 (H9環境)

田中 博人 (H16環境)

河上 貴広 (H16生産)

河上彩矢佳 (H17生産)

齋藤 治蔵 (S38林学)

松田 年司 (S40農工)

種市 英雄 (S43農学)

小山 文男 (S45農化)

田端 一晴 (S49農工)

顧 問 齋藤 秀一 (S30農学)

徳波 信雄 (S34農学)

京滋地区マネージャー

鈴木 顕雄 (S41林学)

附 則
平成24年10月6日より実施する。
(関西支部：大阪市中央区東心斎橋196、シテイコープ心斎橋601、旧地方

計画設計コンサルタント事務所、
会場の湖月は50mの位置になります。
TEL/FAX 06・6252・6887



関西支部総会 平成24年10月6日(土) 於：大阪新斎橋 割烹 湖月

著書の紹介

農文協、新特産シリーズ

『ダダチャマメ』の紹介

ダダチャマメ系品種は、約10品種が鶴岡市で栽培されているが、食すると、他の品種と比較しておいしいことに気づくであろう。そのおいしさ故にブランド化され、現在、800余ヘクタールで栽培されている。ダダチャマメはどのような特性を持つエダマメなのか、どうして美味しいのか、健康機能性成分は含まれているのか、美味しいエダマメの栽培はどのように行うのかなど、山形大学農学部では20年以上前から研究を続けてき

た。この本では、植物遺伝育種学分野(研究室におけるダダチャマメ研究に関する最近の成果をまとめたものである。図表として掲載したデータの殆どは、学生さんが卒業論や修論の研究で取り組んだデータである。ダダチャマメは7月下旬から9月の上旬にわたって、鶴岡市を中心に生産されるエダマメで種皮が褐色であり莢には細く短い茶毛(毛茸)が生えている。茹でて食べる独特の甘みとコク、香りの豊かなエダマメである。エダマメのおいしさの成分として、旨味のアミノ酸、甘味の糖、そして香り

の成分が大きく関わっていることがこれまでの研究から明らかになっている。ダダチャマメ系統の品種は他のエダマメ用品種と比較して圧倒的にこれらの含量が多く、良食味である。しかしながら、ダダチャマメは栽培が難しく、良食味のダダチャマメを生産するためには、土づくりや栽培管理に十分な注意を要する。また、ダダチャマメ系統には約10品種が栽培されているが、これらの品種の特性を理解し、

これらの特性に合わせた栽培が求められる。この本では、これまでの研究成果も織り交ぜながら、ダダチャマメとはどんなエダマメなのかを探究した。本書ではダダチャマメの魅力のほんの一部を明らかにしたに過ぎない。まだ研究されるべきことが多く残っているが、これからもその魅力の解明に力を入れたいと思っている。

(農学部教授 阿部利徳)



『新特産シリーズ ダダチャマメ』
農文協 阿部利徳 著
定価 1,500円(税込)

鶴窓会会員の著書紹介

加藤 美勝 (昭和34年農学科卒)

- ※「小説 戦国北条記」 知道出版
- ※「団塊力で本を出そう」 知道出版
- ※「最新地震津波総覧」 知道出版
- ※「現代建築設備設計法の潮流」 創栄出版

田村 茂廣 (昭和38年農学科卒)

- ※追憶の「大網」 東北出版企画
- ※写真集 多層民家の里・田麦俣 東北出版企画
- ※羽黒修験長圓坊上林茂丸老師伝 (非売品) 東北出版企画

村上 龍男 (昭和38年農学科卒)

- ※山形の魚類たち 東北出版企画
- ※思い出語り 雑魚しめ 東北出版企画
- ※思い出語り イワナ釣り三昧 東北出版企画
- ※思い出語り 庄内の磯釣り 東北出版企画
- ※山形加茂海岸のクラゲ 東北出版企画
- ※クラゲ館長最後の釣り語り 東北出版企画

佐藤 晨一 (共著) (昭和41年農学科卒)

- ※銘柄米をつくりこなす あきたこまちはなの舞 農文協



『小説 戦国北条記』 知道出版
加藤美勝 著 定価 1,785円(税込)



『団塊力で本を出そう』 知道出版
加藤美勝 著 定価 1,260円(税込)

編集後記

鶴窓会だより19号をお送りいたします。

長年の懸案でありました会則の改訂が成就いたしました。「改訂された会則」を掲載致しましたので御覧いただければ幸いです。

今年度に退職なされる3名の教授の方々からご寄稿をいただきました。新たに着任されました4名の方々からご挨拶をいただいております。また、在学、留學生の方々からご協力いただきました。

これまでも、学内の先生の著書の紹介をしてきましたが、この度、会員諸兄の著書を巻末に紹介させていただきました。

31名の「会員の声」がございました。また、多くの支部から写真入りの支部報告をいただきました。感謝申し上げます。

(菅原)